

News Release



各報道機関文教担当記者 殿

11/1 公開シンポジウムを金沢で開催!!

金沢大が世界に誇る最先端の研究を紹介

金沢大学では、2008年度から毎年、本学が有する世界に誇る最先端の研究を紹介するシンポジウム「金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム—Features for the Future フィーチャーズ・フォー・ザ・フューチャー—」を東京や大阪で開催してきました。

2012年の今年、金沢大学は創基150年を迎えました。この記念すべき年に開催する今回のシンポジウムでは、「社会のための大学」として地域とともに歩んできた150年の歴史と、これまで蓄えてきた知の上に開花した、今ホットな研究を紹介します。また、日頃から本学を応援して下さっている地域の皆さんに、これまでの金沢大学、今の金沢大学を改めて知ってもらうこと、さらに次の150年もともに歩んでいけることを願い、地元金沢で開催いたします。

金沢大学創基 150 年記念「講演会・シンポジウム」シリーズ

入場無料

—Features for the Future フィーチャーズ・フォー・ザ・フューチャー—

■第 5 回金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム

日時 平成24年11月1日（木）14：30～

場所 金沢市アートホール（金沢市本町 2-15-1 ポルテ金沢 6F）

テーマ 「金沢大学150年 過去から現在、そして未来へ」

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/events/12/11/01/index.html>

ついては、事前報道及び当日取材について、どうぞよろしくお願いいたします。

本件照会先：金沢大学総務部総務課長 那加野
Tel：076-264-5006

担当：金沢大学広報戦略室 松本
Tel：076-264-5024

金沢大学創基150年記念「講演会・シンポジウム」シリーズ特別回

Features for the Future

フィーチャーズ・フォー・ザ・フューチャー

第5回

金沢大学 未来開拓研究 公開シンポジウム

金沢大学150年
過去から現在,そして未来へ

2012
11.1 (Thu)

14:30~17:40

[会場]
金沢市アートホール
金沢市本町2丁目15番1号
ポルテ金沢6F

入場
無料

- 14:30 開会
特別講演
金沢大学長 中村 信一
「金沢大学創基150年 -東アジアの知の拠点として-」
- 14:50 講演
仁宮 一章 環日本海域環境研究センター・助教
「里山と共に生きる-里山バイオマス リファイナリーを目指して」
- 15:30 講演
櫻井 武 医薬保健研究域医学系・教授
「眠りはどのようにして調節されているか-オレキシンと睡眠覚醒」
- 16:10 休憩
- 16:30 講演
古畑 徹 資料館長
「スライドでみる金沢大学150年のあゆみ」
- 17:00 講演
宮下 孝晴 人間社会研究域歴史言語文化学系・教授
「イタリアの中世壁画の修復と電子化による記録保存」
- 17:40 閉会挨拶



金沢大学
KANAZAWA
UNIVERSITY

〒920-1192 金沢市角間町 <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

■お問い合わせ先：総務部 総務課 総務係 TEL. 076-264-5010 FAX. 076-234-4010 e-mail. ffk@adm.kanazawa-u.ac.jp

日時 2012年11月1日(木)14:30~17:40

場所 金沢市アートホール (金沢市本町2丁目15番1号 ポルテ金沢6F)

[テーマ]

金沢大学150年
過去から 現在,そして未来へ

金沢大学が有する、世界に誇る先端研究を紹介するシンポジウム「第5回 金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム」を開催します。

本学は1862年(文久2年)金沢彦三に開設された加賀藩彦三種痘所を淵源とし、2012年の今年、創基150年を迎えました。今回のシンポジウムでは地域とともに歩んできた150年の歴史と、これまで蓄えてきた知の上に開花した、今ホットな研究をご紹介します。日頃から金沢大学を応援して下さっている皆さんに、これまでの金沢大学、今の金沢大学を改めて知っていただきますとともに、次の150年も皆さんとともに歩んでいけることを願っています。

講演要旨

「里山と共に生きるー里山バイオマス リファイナリーを目指して」

に宮 一章 環日本海域環境研究センター・助教／理工研究域サステナブルエネルギー研究センターバイオマス利用部門協力教員

今の社会では、石油などの化石資源を原料にして、ガソリン、軽油、化成品(プラスチックやゴム)などを大量に製造し、最後は焼却し、二酸化炭素として大気に排出しています。今回紹介するのは、里山に多い竹や雑木林の樹々、つまり太陽の光を基に里山がつくり出す生物資源“里山バイオマス”から、化石資源と同じように自動車燃料や化成品を製造する取り組みです。この製造工程を私たちは“里山バイオマスリファイナリー”と呼んでいます。この研究が実用化されれば、石油枯渇や二酸化炭素の削減に大きく寄与できると考えています。

「眠りはどのようにして調節されているかーオレキシンと睡眠覚醒」

櫻井 武 医薬保健研究域医学系・教授／医薬保健研究域脳・肝インターフェースメディシン研究センター分子神経科学部門長

「睡眠中、私たちの脳で何がおこっているか」ということをお話し、睡眠と覚醒が脳内でどのように操られているかについて、詳しくふれます。20世紀の終わりに「オレキシン」という脳内物質が発見されたことをきっかけとして、睡眠に関するさまざまなことがわかってきました。睡眠・覚醒の調節は、動物の行動や意識、感情などの調節にも関係し、覚醒状態を適切に維持するためのシステムです。さまざまな脳内物質が私たちの覚醒と睡眠をどのように調節しているかを分かりやすい言葉で解説します。

「スライドでみる金沢大学150年のあゆみ」

古畑 徹 資料館長／人間社会研究域歴史言語文化学系・教授

資料館は、金沢大学の歴史が詰まった様々な資料を保管・収集・展示する施設です。創基150年記念事業でもさまざまな役割を果たしてきました。資料館はもとより多くの古い写真を保管しておりますが、本事業のために新たな写真撮影やパネル製作などを行い、これらをまとめて見て楽しめる150年間の歴史スライドを編みあげました。本講演では、そのスライドを使い150年間に金沢大学で起きた事などを、金沢の歴史と関わらせつつ紹介します。

「イタリアの中世壁画の修復と電子化による記録保存」

宮下 孝晴 人間社会研究域歴史言語文化学系・教授／人間社会研究域国際文化資源学研究センター・フレスコ壁画研究センター長

本学は日伊共同プロジェクトとして、イタリアの古都フィレンツェのサンタ・クロチェ教会大礼拝堂に描かれた14世紀のフレスコ壁画の調査と修復を7年の歳月をかけて完成させました。現在は、南イタリアに多くの残されている洞窟教会に描かれた中世壁画群について、その保存状態を診断調査し、後世に残すべくこれらの壁画を電子化により記録し保存する事業を行っています。これは、「文学・芸術系」が集積してきた壁画に対する知と「理工・医薬系」のもつ科学技術による診断調査を融合した、総合大学ならではのチカラを結集して初めてできる歴史的文化遺産の先進的なデジタル・アーカイブ(記録保存)形成の取り組みです。今回は、これまでほとんど紹介されていない南イタリアの中世壁画をお目にかけながら、どのようにして診断し記録するかを紹介します。

第5回 金沢大学未来開拓研究
公開シンポジウム参加申込

参加無料

参加ご希望の方は、電話・FAX・電子メール・Webにてお申し込みください。
お申し込みの際は、参加者ご氏名・ご連絡先をお知らせください。

☐ シンポジウム申し込み締切

2012年10月19日(金)

☐ お申し込み・お問い合わせ先：金沢大学 総務部 総務課 総務係

TEL 076-264-5010

FAX 076-234-4010

e-mail ffk@adm.kanazawa-u.ac.jp

※ご連絡頂きました事項は目的以外の利用、第三者への提供はいたしません。

